

第5回 アジア時間生物学フォーラム (対面とオンラインのハイブリッド開催)に参加して

森岡 絵里[✉]

富山大学 学術研究部理学系

2021年7月15-19日に中国・開封市(Keifeng)の会場とオンラインとのハイブリッド形式で開催された、第5回 アジア時間生物学フォーラム(5th Asian Forum on Chronobiology (以下 AFC2021))に、日本からオンライン参加致しました。視聴参加していただけた身で僭越ではございますが、ウィズコロナ・ポストコロナ時代での学会のスタンダードになっていくと考えられる「ハイブリッド開催」への感想を書いてみたいと思います。

AFC2021の講演会場(Zoom)にアクセスしてまず驚いたのは、画面に映し出された Keifeng の会場の人々の多くがマスクをしていなかったことでした。国や地域によって政策や考え方、状況が大きく異なっていることを実感致しました。講演では、オンライン登壇者の方々については事前に録画したものを流し、その後の質疑応答はライブに切り替えて行うという形で行われました。録画映像がスムーズに始まらず、Zoom画面上にスタンバイしておられる登壇者の先生が心配そうな顔をしておられたり、ログインが間に合わなかった登壇者の先生の講演が後ろにスライドしたり、スケジュールが押しついたり、小さな事はありましたが、概ね順調に進行していました。画像共有操作を一元化して配信トラブルを防いだことが功を奏したのだと思いますが、PCへの負荷や切り替え作業の煩雑さに、ホスト側はさぞ苦労されたことと推察致します。現地の司会の先生が話す際や質疑応答の際などには、会場を映したカメラ映像に切り替わったのですが、そのカメラワークで少しくラクラクしてしまいました。現地会場の音声や映像をどのようにしてオンラインに載せるか、これはハイブリッド開催特有の難しい課題だと思います(個人的にはカメラは動かさすぎないことを希望致します)。

登壇者は120名以上という盛り沢山の学会で、連日朝8時から21時を越えることもありました。日本との時差は1時間なので、私たちはリアルタイムで視聴しましたが、AFC2021では、録画したものを、そ

の日の日程終了後から翌早朝4-7時の間に再生可能にすることで時差に対応していました。欲を言えば、同時進行されていた講演や夜遅くの講演を翌日に再生できるよう、配信時間をもう少し長く設定していただければ、なお良かったのではないかと思います。2日目の21時(日本時間22時)から行われた、William J. Schwartz先生による論文掲載のためのアドバイスと題した特別講演は、非常に興味深く拝聴しました。が、オンタイムにアクセスしたところ、開始時間が早められており、途中から視聴することになってしまったのが残念でした(続けて再生視聴した結果、かなり遅い時間になってしまいました)。メールの一斉送信やWeb掲示板といった、オンライン参加者と最新情報を共有するためのツールを整備しておく必要性を強く感じました。

さて、ここまで順調に学会参加したようなことを書きましたが、実は、学会開始時点ではZoom URLを入手できておらず、参加できたのは初日の午後からでした(登壇者になられていた吉川朋子先生に教えて頂き、参加できました。どうも有難うございました)。オンライン参加だけの登録者へのメール送信がうまく機能していなかったのかなと思います。今後、ハイブリッド開催を主催される先生方には、直前に参加登録したり、前日に問い合わせしたりするポンコツ・オンライン参加者もいるということを心に留めておいていただければと思います。・・・なんだか希望要望ばかりになってしまいました(汗)。対面+オンラインという通常の2倍の準備にご尽力されたAFC2021関係者の方々に感謝申し上げます。

最後に、学生が国外で開催される学会に参加するには、研究成果、タイミング、資金といった様々なハードルがありますが、言わずもがな、ハイブリッド開催では現地に行かなくても気軽に国際学会に参加することができます。有難いことに、AFC2021は、日本からのオンライン参加は無料でしたので、研究室の学生も複数参加登録をし、各々が参加できる時間・場所で

✉ emorioka@sci.u-toyama.ac.jp

講演を視聴することができました(帰省中の実家から視聴した学生も居ました)。シンポジウムの視聴に特化した参加形態ではありましたが、学生たちにとっては良い機会になったのではないかと信じています。も

ちろん対面で参加できるのが一番ですが、終わりの見えないコロナ禍中、オンラインやハイブリッド開催の学会を積極的に活用し、学生と一緒に楽しみたいと思っています。

